

呉工業高等専門学校

令和8年度 シラバス

本科留学生科目

呉工業高等専門学校				本科留学生科目				開講年度				令和08年度（2026年度）															
学科到達目標																											
本科の学習・教育目標																											
(HA)豊かな教養と国際性の修得																											
(HB)工学に関連する基礎知識の修得																											
(HC)専門分野の課題に対応できる能力の修得																											
(HD)社会のニーズを捉え、創造的に課題に対応できる能力の修得																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
一般	選択必修	日本語・日本事情Ⅰ	0004	履修単位	4								4		4									小松 未奈美			
専門	選択必修	建築学演習	0001	履修単位	1								2												松野 一成		
専門	選択必修	環境工学演習	0002	履修単位	1								2												木村 善一郎		
専門	選択必修	電気工学演習	0003	履修単位	1								2												板東 能生		
専門	選択必修	機械工学演習	0005	履修単位	1								2												山田 祐士		
一般	選択必修	日本語・日本事情Ⅱ	0006	履修単位	2											2		2							小松 未奈美		
一般	選択必修	日本語・日本事情Ⅲ	0007	履修単位	1														2						小松 未奈美		

呉工業高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)		授業科目	日本語・日本事情Ⅰ	
科目基礎情報							
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4			
開設学科	本科留学生科目		対象学年	3			
開設期	通年		週時間数	4			
教科書/教材	新完全マスターN2漢字、日本語総まとめN1、新・外国人留学生のための面接、留学性のためのディスカッショントレーニング、他						
担当教員	小松 未奈美						
到達目標							
1. 日本語能力試験のN1～N2程度の能力（読む・書く・聞く・話す）を身につける。 2. 状況や文脈に応じた適切な語彙・文法・敬語を選択し、正しく運用する力を養う。 3. 専門科目や将来のキャリアにも応用できる幅広い視野を持ち、自らの考えを論理的に表現する力を高める。 4. アカデミックな文章の構造や表記ルールを理解し、主張と根拠が明確な文章を書く力を伸ばす。 5. 目的や対象に応じた効果的な口頭発表を行い、適切に質疑応答を行う能力を身につける。 6. 他者との協働や課題作成を通じて、情報を収集・整理し編集する能力を養う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を詳細に理解し、正確に運用・再構成できる		N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を概ね理解し、運用・再構成できる		N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を詳細に理解できず、正確に運用・再構成できない		
評価項目2	場面や目的に応じた適切な表現・マナーを用いて、論理的かつ滑らかに自身の考えを発表・応答できる		場面や目的に応じた適切な表現・マナーを用いて、概ね自身の考えを発表・応答できる		表現やマナーに不備が多く、論理的に自身の考えを発表・応答できない		
評価項目3	適切な文章構造やルールを用いて、論理的で質の高い文章や成果物を作成できる		基本的な文章構造やルールを守り、ある程度論理的な文章や成果物を作成できる		文章構造やルールへの理解が不足しており、論理的な文章や成果物を作成できない		
学科の到達目標項目との関係							
本科の学習・教育目標 (HA)							
教育方法等							
概要	一般的な日本語運用能力の習得、向上、更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学、就職に必須なスピーキング・ライティングの能力を養う。						
授業の進め方・方法	講義, レポートなど						
注意点	特になし						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		自己紹介・授業の説明		
		2週	辞書作り/面接練習		辞書作りの説明/敬語の総復習		
		3週	小テスト/ディクトグロス①		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		
		4週	辞書作り/面接練習		辞書作り/自己分析・長所と短所		
		5週	辞書作り/面接練習		辞書作り/自己PR		
		6週	小テスト/ディクトグロス②		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		
		7週	辞書作り/面接練習		辞書作り/志望動機		
		8週	辞書作り/面接練習		辞書作り/高専で学んだこと		
	2ndQ	9週	辞書作り/面接練習		辞書作り/面接のマナー		
		10週	小テスト/ディクトグロス③		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		11週	辞書作り/面接練習		辞書作り/逆質問		
		12週	辞書作り/面接練習		辞書作り/時事問題		
		13週	小テスト/ディクトグロス④		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		14週	面接練習		模擬面接		
		15週	発表		辞書作りの成果発表		
		16週	まとめ		辞書作り、面接へのフィードバック		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		後期目標・進め方の説明		
		2週	アカデミックライティング		書き言葉の文体		
		3週	アカデミックライティング		レポートで使う語彙		
		4週	小テスト・ディクトグロス①		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		5週	アカデミックライティング		「こと」と「の」/「は」と「が」の使い分け		
		6週	アカデミックライティング		書き手の視点について		
		7週	小テスト・ディクトグロス②		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		8週	アカデミックライティング		レポート修正による成果物作成		
	4thQ	9週	アカデミックスピーキング		アカデミックスピーキングとは		
		10週	アカデミックスピーキング		話し言葉と語彙		
		11週	小テスト・ディクトグロス③		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		

		12週	アカデミックスピーキング	スライドを使って話す
		13週	アカデミックスピーキング	発表・質疑応答の練習
		14週	小テスト・ディクトグロス④	N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス
		15週	アカデミックスピーキング	発表
		16週	まとめ	アカデミックライティング・スピーキングへのフィードバック

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	成果物(前期辞書・後期レポート)	発表(前期模擬面接・後期口頭発表)	ディクトグロス	小テスト	合計
総合評価割合	30	30	30	10	100
基礎的能力	30	30	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)		授業科目	建築学演習	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	専門 / 選択必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	本科留学生科目			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント等配布						
担当教員	松野 一成						
到達目標							
建築学に関する基礎科目（本科1, 2年で学習する内容を含む）の基礎事項を理解し, 説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		建築学の基礎事項について説明 ことができ, 関連した応用計算 ができること。		建築学の基礎事項について説明 ことができ, 関連した計算がで きること。		建築学の基礎事項について説明 することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	建築学の基礎科目（本科1, 2年で学習する内容を含む）の基礎事項を演習形式で学ぶ。						
授業の進め方・方法	配布プリントに従い授業を進める。適宜, 計算問題や製作などの演習を含める。						
注意点	レポート, 課題計算を課せられた場合は, 指示に従い期限までに提出すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	建築学の基礎科目に関する演習		建築学の基礎科目の演習を行い, 理解する。		
		2週	〃		〃		
		3週	〃		〃		
		4週	〃		〃		
		5週	〃		〃		
		6週	〃		〃		
		7週	〃		〃		
		8週	〃		〃		
	2ndQ	9週	〃		〃		
		10週	〃		〃		
		11週	〃		〃		
		12週	〃		〃		
		13週	〃		〃		
		14週	〃		〃		
		15週	〃		〃		
		16週	〃		〃		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		演習・レポート課題評価			合計		
総合評価割合		100			100		
基礎的能力		100			100		
専門的能力		0			0		
分野横断的能力		0			0		

呉工業高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)		授業科目	環境工学演習	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	専門 / 選択必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	本科留学生科目			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント等配布						
担当教員	木村 善一郎						
到達目標							
環境都市工学に関する基礎科目（本科1～3年で学習する内容）の基礎事項を理解し、説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		環境都市工学の基礎事項について説明することができ、関連した応用計算ができること。		環境都市工学の基礎事項について説明することができ、関連した計算ができること。		環境都市工学の基礎事項について説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	環境都市工学の基礎科目（本科1～3年で学習する内容）の基礎事項を演習形式で学ぶ。						
授業の進め方・方法	配布プリントに従い授業を進める。適宜、計算問題や製作などの演習を含める。 【新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する可能性があります。】						
注意点	レポート、課題計算を課せられた場合は、指示に従い期限までに提出すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	環境都市工学の基礎科目に関する演習		環境都市工学の基礎科目の演習を行い、理解する。		
		2週	〃		〃		
		3週	〃		〃		
		4週	〃		〃		
		5週	〃		〃		
		6週	〃		〃		
		7週	〃		〃		
	2ndQ	8週	〃		〃		
		9週	〃		〃		
		10週	〃		〃		
		11週	〃		〃		
		12週	〃		〃		
		13週	〃		〃		
		14週	〃		〃		
		15週	〃		〃		
		16週	〃		〃		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		演習・レポート課題評価			合計		
総合評価割合		100			100		
基礎的能力		100			100		
専門的能力		0			0		
分野横断的能力		0			0		

呉工業高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)		授業科目	電気工学演習	
科目基礎情報							
科目番号	0003			科目区分	専門 / 選択必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	本科留学生科目			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	板東 能生						
到達目標							
1. 電気に関する数値表記、単位表記につて用法を理解する 2. 直流回路網の計算方法を理解する 3. 交流回路の計算方法を理解する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	電気に関する指数表記の計算と単位を説明できる		電気に関する指数表記の計算と単位を理解している		電気に関する指数表記の計算と単位を理解していない		
評価項目2	直流回路網に関する応用的計算ができる		直流回路網に関する計算ができる		直流回路網に関する計算ができない		
評価項目3	交流回路網の諸定理を用いて交流回路の計算が適切にできる		交流回路網の諸定理を用いて交流回路の計算ができる		交流回路網の諸定理を用いて交流回路の計算ができない		
学科の到達目標項目との関係							
本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	呉高専 電気情報工学科3年生に編入する外国人留学生に対して行う科目である。通常の学生が本科1～2年で学んだ専門基礎科目の内で編入した留学生の学習が十分でない科目を補う形で行う。実施内容は情報処理、電気基礎、電気回路を中心に行う。						
授業の進め方・方法	ガイダンス中に入学前の状況を判断し、重点課題を見つけ学習の重みづけを行う。学習は情報処理、電気基礎、電気回路を中心に本科3年生以上の科目を受講するために必要な基礎知識を身につける。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス	情報処理、電気基礎、電気回路の学習状況を判断する			
		2週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		3週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		4週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		5週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		6週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		7週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		8週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
	2ndQ	9週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		10週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		11週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		12週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		13週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		14週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		15週	情報処理、電気基礎、電気回路の基礎学習	電気・情報工学の基礎を身につける			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	70	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	50	20	0	70
専門的能力	0	0	0	20	10	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)		授業科目	機械工学演習	
科目基礎情報							
科目番号	0005			科目区分	専門 / 選択必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	本科留学生科目			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント等配布						
担当教員	山田 祐士						
到達目標							
機械工学（物理学，化学，材料学，工業力学，機械設計製図，機構学，ものづくり，電気工学）に関する基礎演習を含めて基礎事項を理解し，説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		機械工学の基礎事項について説明 することができ，関連した応用計算 ができること。		機械工学の基礎事項について説明 することができ，関連した計算が できること。		機械工学の基礎事項について説明 することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科の学習・教育目標 (HC)							
教育方法等							
概要	機械工学分野に所属する全教員が，機械工学（物理学，化学，材料学，工業力学，機械設計製図，機構学，ものづくり，電気工学）に関する基礎演習を含めて基礎事項を学ぶ。						
授業の進め方・方法	配布プリントに従い授業を進める。適宜，計算問題や製作などの演習を含める。						
注意点	レポート，課題計算を課せられた場合は，指示に従い期限までに提出すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	機械工学（物理学，化学，材料学，工業力学，機械設計製図，機構学，ものづくり，電気工学）に関する基礎演習		機械工学（物理学，化学，材料学，工業力学，機械設計製図，機構学，ものづくり，電気工学）に関する基礎演習を実践し，理解する。		
		2週	〃		〃		
		3週	〃		〃		
		4週	〃		〃		
		5週	〃		〃		
		6週	〃		〃		
		7週	〃		〃		
		8週	〃		〃		
	2ndQ	9週	〃		〃		
		10週	〃		〃		
		11週	〃		〃		
		12週	〃		〃		
		13週	〃		〃		
		14週	〃		〃		
		15週	〃		〃		
		16週	〃		〃		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		演習・レポート課題評価			合計		
総合評価割合		100			100		
基礎的能力		100			100		
専門的能力		0			0		
分野横断的能力		0			0		

呉工業高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)		授業科目	日本語・日本事情Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0006			科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	本科留学生科目			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	新完全マスターN2漢字、日本語総まとめN1、新・外国人留学生のための面接、留学性のためのディスカッショントレーニング、他						
担当教員	小松 未奈美						
到達目標							
1. 日本語能力試験のN1～N2程度の能力（読む・書く・聞く・話す）を身につける。 2. 状況や文脈に応じた適切な語彙・文法・敬語を選択し、正しく運用する力を養う。 3. 専門科目や将来のキャリアにも応用できる幅広い視野を持ち、自らの考えを論理的に表現する力を高める。 4. アカデミックな文章の構造や表記ルールを理解し、主張と根拠が明確な文章を書く力を伸ばす。 5. 目的や対象に応じた効果的な口頭発表を行い、適切に質疑応答を行う能力を身につける。 6. 他者との協働や課題作成を通じて、情報を収集・整理し編集する能力を養う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を詳細に理解し、正確に運用・再構成できる			N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を概ね理解し、運用・再構成できる		N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を詳細に理解できず、正確に運用・再構成できない	
評価項目2	場面や目的に応じた適切な表現・マナーを用いて、論理的かつ滑らかに自身の考えを発表・応答できる			場面や目的に応じた適切な表現・マナーを用いて、概ね自身の考えを発表・応答できる		表現やマナーに不備が多く、論理的に自身の考えを発表・応答できない	
評価項目3	適切な文章構造やルールを用いて、論理的で質の高い文章や成果物を作成できる			基本的な文章構造やルールを守り、ある程度論理的な文章や成果物を作成できる		文章構造やルールへの理解が不足しており、論理的な文章や成果物を作成できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的な日本語運用能力の習得、向上、更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学、就職に必須なスピーキング・ライティングの能力を養う。						
授業の進め方・方法	講義、レポートなど						
注意点	特になし						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		自己紹介・授業の説明		
		2週	辞書作り/面接練習		辞書作りの説明/敬語の総復習		
		3週	小テスト/ディクトグロス①		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		
		4週	辞書作り/面接練習		辞書作り/自己分析・長所と短所		
		5週	辞書作り/面接練習		辞書作り/自己PR		
		6週	小テスト/ディクトグロス②		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		
		7週	辞書作り/面接練習		辞書作り/志望動機		
		8週	辞書作り/面接練習		辞書作り/高専で学んだこと		
	2ndQ	9週	辞書作り/面接練習		辞書作り/面接のマナー		
		10週	小テスト/ディクトグロス③		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		11週	辞書作り/面接練習		辞書作り/逆質問		
		12週	辞書作り/面接練習		辞書作り/時事問題		
		13週	小テスト/ディクトグロス④		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		14週	面接練習		模擬面接		
		15週	発表		辞書作りの成果発表		
		16週	まとめ		辞書作り、面接へのフィードバック		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		後期目標・進め方の説明		
		2週	アカデミックライティング		書き言葉の文体		
		3週	アカデミックライティング		レポートで使う語彙		
		4週	小テスト・ディクトグロス①		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		5週	アカデミックライティング		「こと」と「の」/「は」と「が」の使い分け		
		6週	アカデミックライティング		書き手の視点について		
		7週	小テスト・ディクトグロス②		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		8週	アカデミックライティング		レポート修正による成果物作成		
	4thQ	9週	アカデミックスピーキング		アカデミックスピーキングとは		
		10週	アカデミックスピーキング		話し言葉と語彙		
		11週	小テスト・ディクトグロス③		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		
		12週	アカデミックスピーキング		スライドを使って話す		

		13週	アカデミックスピーキング	発表・質疑応答の練習
		14週	小テスト・ディクトグロス④	N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス
		15週	アカデミックスピーキング	発表
		16週	まとめ	アカデミックライティング・スピーキングへのフィードバック

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	成果物(前期辞書・後期レポート)	発表(前期模擬面接・後期口頭発表)	ディクトグロス	小テスト	合計
総合評価割合	30	30	30	10	100
基礎的能力	30	30	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)		授業科目	日本語・日本事情Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	本科留学生科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	新完全マスターN2漢字、日本語総まとめN1、新・外国人留学生のための面接、留学性のためのディスカッショントレーニング、他						
担当教員	小松 未奈美						
到達目標							
1. 日本語能力試験のN1～N2程度の能力（読む・書く・聞く・話す）を身につける。 2. 状況や文脈に応じた適切な語彙・文法・敬語を選択し、正しく運用する力を養う。 3. 専門科目や将来のキャリアにも応用できる幅広い視野を持ち、自らの考えを論理的に表現する力を高める。 4. アカデミックな文章の構造や表記ルールを理解し、主張と根拠が明確な文章を書く力を伸ばす。 5. 目的や対象に応じた効果的な口頭発表を行い、適切に質疑応答を行う能力を身につける。 6. 他者との協働や課題作成を通じて、情報を収集・整理し編集する能力を養う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を詳細に理解し、正確に運用・再構成できる			N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を概ね理解し、運用・再構成できる		N1～N2レベルの語彙・文法や聴解内容を詳細に理解できず、正確に運用・再構成できない	
評価項目2	場面や目的に応じた適切な表現・マナーを用いて、論理的かつ滑らかに自身の考えを発表・応答できる			場面や目的に応じた適切な表現・マナーを用いて、概ね自身の考えを発表・応答できる		表現やマナーに不備が多く、論理的に自身の考えを発表・応答できない	
評価項目3	適切な文章構造やルールを用いて、論理的で質の高い文章や成果物を作成できる			基本的な文章構造やルールを守り、ある程度論理的な文章や成果物を作成できる		文章構造やルールへの理解が不足しており、論理的な文章や成果物を作成できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的な日本語運用能力の習得、向上、更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学、就職に必須なスピーキング・ライティングの能力を養う。						
授業の進め方・方法	講義、レポートなど						
注意点	特になし						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		自己紹介・授業の説明		
		2週	辞書作り/面接練習		辞書作りの説明/敬語の総復習		
		3週	小テスト/ディクトグロス①		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		
		4週	辞書作り/面接練習		辞書作り/自己分析・長所と短所		
		5週	辞書作り/面接練習		辞書作り/自己PR		
		6週	小テスト/ディクトグロス②		N1語彙/N2聴解文章のディクトグロス		
		7週	辞書作り/面接練習		辞書作り/志望動機		
		8週	辞書作り/面接練習		辞書作り/高専で学んだこと		
	2ndQ	9週	辞書作り/面接練習		辞書作り/面接のマナー		
		10週	小テスト/ディクトグロス③		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		11週	辞書作り/面接練習		辞書作り/逆質問		
		12週	辞書作り/面接練習		辞書作り/時事問題		
		13週	小テスト/ディクトグロス④		N1語彙/N3聴解文章のディクトグロス		
		14週	面接練習		模擬面接		
		15週	発表		辞書作りの成果発表		
		16週	まとめ		辞書作り、面接へのフィードバック		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	成果物(辞書)	発表(模擬面接)	ディクトグロス	小テスト	合計		
総合評価割合	30	30	30	10	100		
基礎的能力	30	30	30	10	100		
専門的能力	0	0	0	0	0		
分野横断的能力	0	0	0	0	0		